

平成 29 年 10 月 21 日（土）13:00～15:30 第 2 分科会「防災」
「防災分野の ICT 活用推進における技術士の役割」

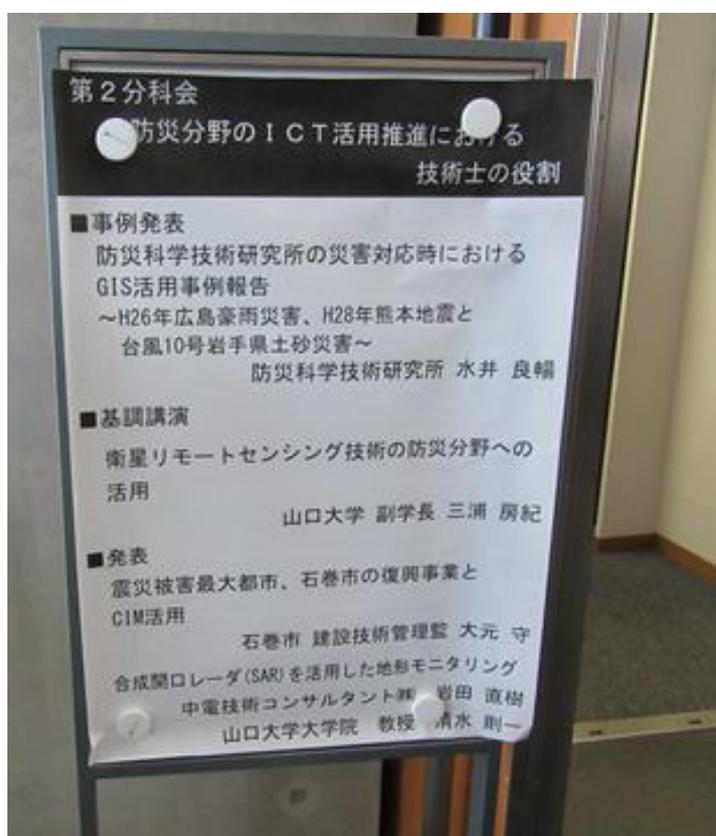
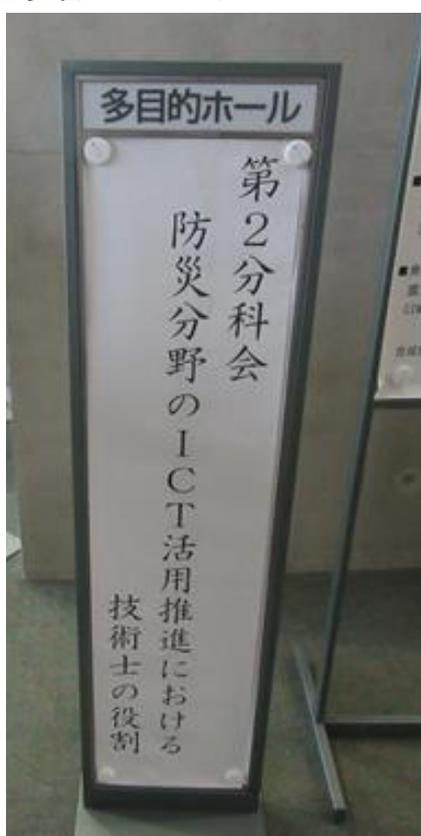
□玄関



□玄関ホール



□多目的ホール入口



□多目的ホール



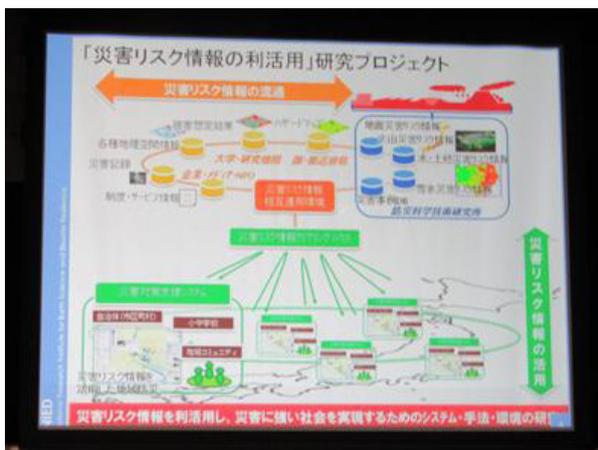
■第2分科会司会：中国本部防災委員会 西村 悟之



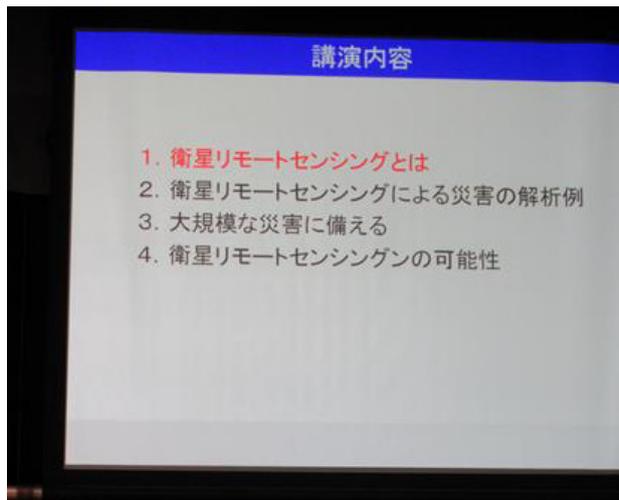
■開会挨拶：中国本部防災委員会委員長 古川 智



■事例発表：防災科学技術研究所 水井 良暢研究員



■基調講演：山口大学 副学長 三浦 房紀 特命教授



リモートセンシング(Remoto Sensing)

リモートセンシング → 対象を遠隔から測定する技術

remoto: 遠い、遠方の、遠隔の
sensing: 検出、感知

一般には、人工衛星や航空機などから地球表面付近を観測する技術を指すことが多い。
最近ではドローンも活用

【リモートセンシングが活用されている例】

- ◆地震や津波等の被害状況の把握
- ◆火山活動、土砂災害の把握
- ◆資源探査
- ◆植生の分布(森林伐採、砂漠化、農作物の状況etc.)
- ◆土地利用情報
- ◆気象情報の把握(雨の強さ、台風の内部状況、ヒートアイランド現象etc.)
- ◆海面温度、赤潮など海洋情報の把握(エルニーニョ現象etc.)
- ◆穀物生産予測

山口大学 中村泰明先生提供のPPTに加工

衛星リモートセンシング・2種類のセンサー

電磁波をセンサーでキャッチ

太陽

太陽光

電磁波

受動式(光学センサー)

太陽光線
太陽光線の反射
星間のみ
観測衛星
地球自身のエミューン放射

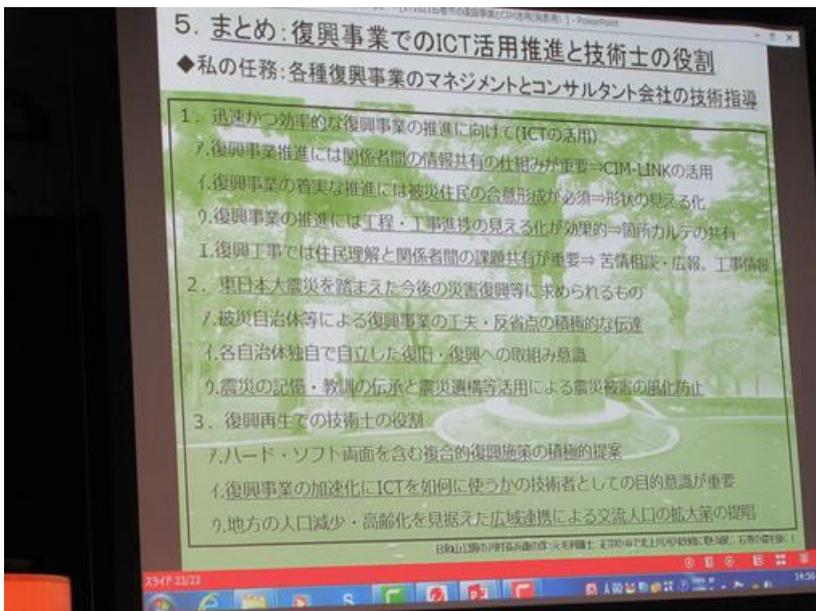
能動式(マイクロ波センサー)

観測衛星
マイクロ波放射
観測衛星
マイクロ波の反射や散乱
夜間や雲があっても利用できる。

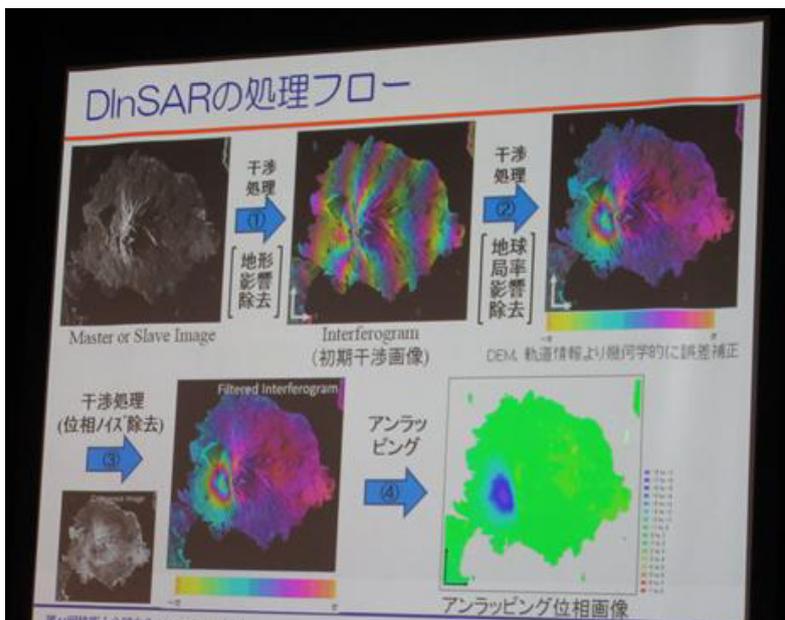
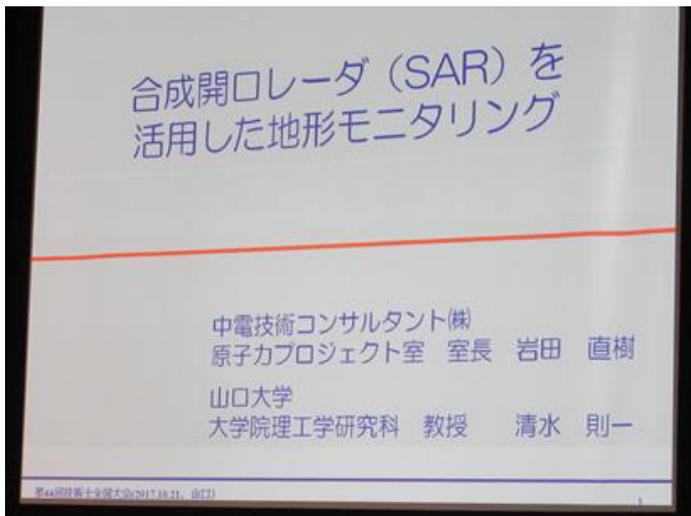
光や熱として感じることでできる「電磁波」をセンサーで観測

中村泰明先生作成PPTに加工修正

■ 会員発表－1：石巻市 大元 守



■ 会員発表－ 2 : 中電技術コンサルタント(株) 岩田 直樹



■会場との質疑応答



■講評・まとめ：山口大学 副学長 三浦 房紀 特命教授

